

2012年 8 月号



スイカは西瓜と書きますが、中国の西方ウィグルから中国に伝わり、日本には中国から14世紀ごろ伝わったようです。日本全国各地でとれ、収穫の時期は長く、2月ごろから採れるものもあるようですが、多くは5月ごろから徐々に北上して9月ごろまで。スイカ前線という言葉もあるようです。最大の産地は熊本県で、以下、千葉県、山形県、鳥取県、長野県と続きますが、他の果物と比べると気候的に特徴がないような感じがします。今はデザートとして図のような食べ方をする人も多いでしょうが、昔はそんな“ケチ”な食べ方をする人は皆無。大玉を1回で家族で分けて食べるのが当たり前だったのですが、今や、値段も大幅アップ。そんな豪快な食べ方を知らない人の方が多いのではないのでしょうか。季節だけでなく、時代を感じる食べものの一つですね。

8月定例会案内

定例会は漢方養生が中心・・・詳細 P.2

本・サンプル
プレゼントあり

8月21日(火)、7月と同じく国際医療福祉大学大学院にて開催。薬剤師で、長く漢方の研究と相談に携わっておられる株式会社自然美の村上百代先生の講演「四季の漢方養生と夏から秋に向けてのアンチエイジング対策」が中心。今回、髪や肌などにも焦点が当たり、白髪を気にしている方などは耳寄りのお話が聞けます。また、参加者全員に本とサンプルのプレゼントがあります。また、代表の市民学は、今回、脳や心臓の血管障害の予防のため、「血管の強め方」というテーマで研究報告します。

7月定例会の報告

・・・詳細 P.3-5

7月定例会は日本リフレクソロジスト養成学院学院長の笹井和子様の講演「リフレクソロジー」と梶原代表の市民学「うつ病予防の法則2」がありました。

その他

・・・詳細 P.6-9

今回は、小山悠子先生のサンデンタルクリニックのご紹介、酷暑とも言われる日もある昨今ですがWGBT(熱中症リスク度)概念と計器の紹介、診療報酬の一つで複雑な調剤報酬の話、「医療は公共財かビジネスか」では、メガネの技術者の資格について見てみました。

健康医療市民会議(KISK) 代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-2 東武ハイライン大門203

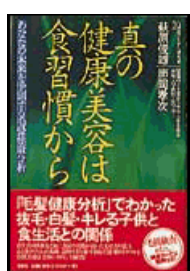
TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: <http://www.kisk.jp>

お知らせ:会報は当会ホームページ <http://www.kisk.jp> の「会報」ボタンからダウンロードできます。

第53回（8月）定例会のご案内

日 時：平成24年（2012年）8月21日（火）16時（午後4時）～18時
 場 所：国際医療福祉大学大学院 港区南青山1-3-3 青山1丁目タワー5F（下図参照）
 参加費：会員¥2,000、同伴者・ビジター¥3,000
 予 定：16:00-16:45 中間報告 梶原代表
 市民学シリーズ第10弾「血管の強め方」梶原代表
 16:45-18:00 講演「四季の漢方養生と夏から秋に向けてのアンチエイジング対策」
 (株)自然美 薬剤師 村上 百代 先生

＜講演案内＞「四季の漢方養生と夏から秋に向けてのアンチエイジング対策」村上百代先生
 (株)自然美は東洋医学を基本に、「真の美容は健康から生まれる」をモットーとし、“若さを保つ抗老防衰”を追求するために、4つの施法（内治・外治・心理・体操）を用いて体質・症状に適した施法と生活養生法をアドバイスしています。今回は四季の養生を中心に、夏バテ対策と秋にむけての食材や簡単なつぼ刺激などについて、髪や肌も含めた、今からできるアンチエイジングをお話します。漢方では、全てのものを5つにあてはめて考える五行理論があります。自然界や人間の体も 木・火・土・金・水 という5つの要素から成り立ち、一定の法則に基づいて互いに関係を持ちながら、バランスをとっています。四季の養生もこの5つの性質や食材や経絡を知ること



行うことができます。食材には四気と五味・五行・作用があります。また先天の気・後天の気としての養生の話まで出来ればと思っています。（先生筆）
 なお、今回、ご参加の方全員に、講演でも使用する本「真の健康美容は食習慣から」「人生そしていのち」（ともに自然美グループ代表・萩原俊雄著）および(株)自然美の美容と健康のための健康食品ビューティヘルスゼリーのサンプル（2包）をプレゼントします。

村上百代先生プロフィール： 軽い統合失調症の母に生まれ、その病を治す為に薬剤師になった。北里大学薬学部卒業後、製薬会社研究部に勤務するが、新薬が病気を仮に治しても人を治すのは、薬のその成分だけではない。むしろ気持ちだったり、食事だったり、東洋医学的発想が大切と感じ、(株)自然美に30年ほど勤務している。また薬剤師として現代医療に携わる為に、処方箋調剤薬局でも研鑽している。

(株)自然美システム：化粧品、栄養補助食品、健康器具等の販売や自然美健康美容システム理論に基づく普及及び指導相談を事業とする会社。

代表の市民学シリーズ第10弾「血管の強め方」

何と言っても、脳や心臓の血管障害が日本人の死因のトップを行っており、病人のケアや後遺症の問題も大きく、介護を含めて考えると医療費に占める割合は非常に大きなものがあります。典型的な疾病である脳卒中や心不全などの予防法として、特に血管の老化防止、強化に焦点を当てて、代表の研究成果を発表します。

定例会会場案内図

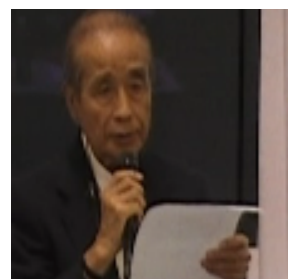


第52回（7月）定例会報告（メモ）

7月の定例会は17日（火）国際医療福祉大学大学院をお借りして開催しました。今回は、リフレクソロジーのお話を中心に、代表の市民学シリーズ「うつ病予防の法則—2」などがありました。

1. 中間報告 梶原代表

前回定例会の、代表市民学第9弾の「うつ病予防の法則その1」、小川真誠・国際介護予防センター社長の「心身バランス計」の紹介、松村有子・東京大学医科学研究所特任助教の「がん何でも相談室」を簡単に振り返った後、今回の講演リフレクソロジーの講師・笹井和子様の紹介、8月定例会の案内などがありました。また、インターネットのフェースブック上に立ち上げた健康医療市民倶楽部については、現在、中身を作りつつあるとの報告もありました。



2. 市民学シリーズ第10弾「うつ予防法—その2」梶原 拓様 健康医療市民会議代表

先月はうつなどの精神疾患の現状と問題点を内海聡氏の著書と東洋経済6/16号を中心に説明したが、精神病治療は問題がありこれを念頭に考える必要がある。本日の参考書は最後に挙げたが、いずれもPHP新書で、生田徹著「心の病は食事で治す」掲載の「分子整合医学を実践のクリニック」と「サプリメントの入手先」は脳内物質や薬は多く使わないの切口の著、そして大野裕著「うつを治す」等も参考になる。本日は対応策を説明するが、友人等からも聴かれており安直に任せないで勉強や情報が大切と話している。

まず「うつ予防法五原則」だが、第一 精神医学は発展途上で未だ原因は未解明。多剤大量処方や精神病棟での患者の死亡などが指摘されている。精神医学は米国では心理学学会から公式に批判を浴びたりしており、安直に任せることなく、病院や治療法も良く選択しチェックする。**第二** 精神を神秘的と見るあまり、木を見て森を見ていない状態か。脳も臓器の一つで情報処理機能を。ソフトや食事も原因の一つ。脳の再生は脳の血流が大切。大脳の運動野の過半を占める口や手の指の運動が効果的。歩行は小脳を活性化する。うつの予防や認知症予防に有効。**第三** 脳疲労の防止は横倉医師のご指摘のように五感の刺激が大切。脳は「快」を好み「不快」を嫌う。いい景色、いい匂い、快い音楽、美味しい味、気持ちの良いマッサージの快感で脳はリラックス。反対は脳疲労。頭脳労働者は休息大切。仕事を離れスポーツ等も。太陽光でセロトニン。ぬるま湯のお風呂も良い。**第四** 脳にも栄養補給大切。必用な脳内物質を確保。脳内物質のインバランスを正す「分子整合精神医学」。マルチビタミン、マルチミネラル、必須脂肪酸、アミノ酸、ブドウ糖等が必要だが個人差がある。体質や生活習慣で異なる。数か月のストック量の毛髪検査もある。**第五** 生活環境を変える。対人関係の不調和が脳の情報処理に不調を。血縁、地縁、社縁が弱くなれば趣味の仲間やグループ活動や外に向かったネットワークの「隠れ家」もつちかおう。健康医療市民倶楽部のキスク健康村への参加や、小川式心身機能活性運動への参加で自分も相手も気力向上になどもある。

次は「うつ予防10か条」。これは各自が自分でいろいろ学び経験した中から構築するもの。梶原

第52回（7月）定例会報告（メモ）（続）

「うつ予防法—その2」（続）

個人では 1 食事 30 回以上噛む・手の指運動 2 毎日 45 分以上歩く 3 食事はバランスよくを心がけ 4 たまにはサプリメントを 5 定期的に休養・体動かし・脳を空っぽに 5 昼 20 分太陽光・23 時前就眠・その前ぬるま湯の風呂 7 なるべくいい景色、いい匂い、いい音楽、美味しいものを選び楽しむ、脳リラックス 時にはマッサージやリフレクソロジー 8 人間関係摩擦では発想も変え新しい関係を求める 9 仕事以外の友人やグループ活動 10 もしうつ病と疑われても慎重に医師を選び処方もセカンドオピニオンを求める。これが現在の私の 10 箇条。と締めくくられました。すごい勉強と方向の構築にみんな感謝で拍手喝采。（テキストの全体は KISK の HP に掲載）

3. 「リフレクソロジー」 笹井和子様 日本リフレクソジスト養成学院[REFLE/リフレ]学院長

梶原代表から、補完代替医療が盛んな英国の「リフレクソロジー」の技術を伝授され指導者の養成をしている院長先生で私も利用した経験があるがすごく癒し効果があるとの紹介で、スマートで優しい雰囲気の笹井先生の講演が「緩和ケア、看護・介護にも生かせる補完療法であるリフレクソロジー」のパネルを背景に始まりました。お招きいただき光栄、補完療法の「リフレクソロジー」は単なる足モミやマッサージとは異なる。36 年前母や叔母も関係していたガンケア。私は大妻女子大の家政学部卒後、旅行会社に勤務し国際部や広報も担当していたが、今後の人材養成には何が必要かとのトップの問いかけに、現在はコンピューターの普及等で人と話す機会が減っており病気の原因の 8 割はストレスからと思い、**五感を大切にするリフレクソロジーを 96 年提案**し実現した。ビジネスで東洋や西洋のマッサージとなると関節や力をいれてのものになりサロンの経営のみとなってしまうので、**98 年日本リフレクソジスト養成学院(リフレ)を開設**。本格的リフレの導入で痛みを緩めるセラピーでガンの終末対応に力を入れており、**14 のホスピス・緩和ケア病棟で延べ 8 千人のガン末期の対応**をし、効果をあげている。昨年 14 年目で、**米国で世界有数のスローン・ケタリング記念がんセンターの統合医療部門主宰の「バリー・R・キャンシレス博士女史」**に学院で話をさせていただいた。年間 2 万人のホスピスの対応をされているが博士はリフレクソロジーにはその効果の科学的エビデンスがあるとされた。日本ではボランティアでも活躍しているが医療の市場でもサービスが必要との認識が大切と思う。スローン・ケタリング記念がんセンターでは、入院患者には無料で、外来患者には有料で緩和ケアのセラピーが提供されている。米国では、2 割の病院でリフレクソロジーを含む様々なセラピーが、緩和ケアとして導入されているが、その 4 割しか黒字ではないとか。英国では病院のホスピスで元気を貰って家に帰って生活する人が多い。我々も 14 年になるが、日本でも退院する人が増えている。自宅に来て欲しいとの人も多い。1/3 はガンで死ぬといわれているが、ケアとなるとリフレだと思う。看護師や介護士にも習って欲しい。指を動かすことや足は大切だ。効果について統計的データーが不足している。キャンシレス博士も患者の気を上げることが大切とされる。



さて「リフレクソロジー」は、Reflex 反射+ology 学問で「反射学」といわれるが、肩や腰など

第52回（7月）定例会報告（メモ）（続）

3.「リフレクソロジー」（続）

全身を映し出す対応「反射区」図が顔・手の平・足裏にあり、英国では34年間のデータが蓄積されている。「期待する効果」は1 ヒューマンタッチによるリラクゼーション効果 2 自然治癒力の回復と維持 3 免疫力と抵抗力の向上 4 血管の循環を良くして不調を改善 5 新陳代謝をよくし体内の老廃物の排泄促進 6 疲労感の改善 7 生活習慣による不調の予防。特に体の老廃物を探して指でいねいに排除することが大切。一気に良くなるのではなく、ジワジワと効果がでてくる。

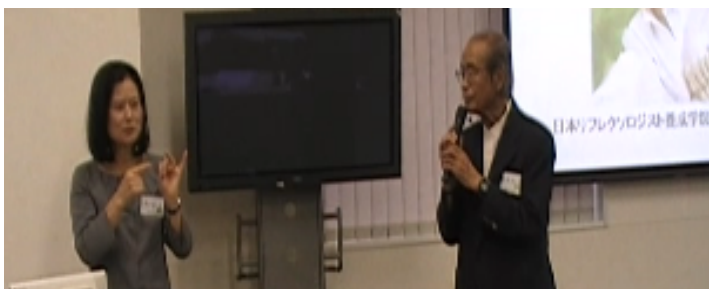
講師は高齢女性の認知症患者へのリフレの実施の効果を、最新脳波解析機 NAT を利用した脳神経外科医との共同研究の途中のデータを図面で示された。赤色は活性化と興奮・青色は沈静化・緑色はプラスマイナス零の状態。脳の動静の状態が比較で目視できる。また最初は施術を受ける気のなかった高齢の男性患者が、他の人がやってもらっているのを見て、三回目にはどうもやって欲しいような気配だったので、施術したら終了後涙を流して喜んで施術者の手をしっかり握ってなかなか離さなかったとのお話も。ホスピスや緩和ケア等病院 14、老人介護施設 15 では補完療法であるリフレの普及を含めてボランティア活動もしており、東日本大震災の宮城県女川町に昨年9月と今年4月に学院卒業生をバスをチャーターして日本人として共通の気持ちで仮設住宅と老人福祉施設と役場で活動してきた。昨年は毎日沢山の対応があつたが、今はほとんどないと現地の方のお話が。

具体的施術はキャタピラーウォークともいわれるが、独特の指の動かし方で毛虫や芋虫が歩くようにやるのが98%だ。親指で力をいれないで、ていねいに老廃物の石灰質をつぶして排除し、血液の循環を良くする。会場の全員での模範実践訓練で、講師は1手の平の親指の下最初の横線の上の部分のもみ活動・その手の上の肩を良くする対応 2 親指の下のかみ付け根の部分から横線で手の平の反対までの線のもみ活動・腰を良くする対応。の二つの実技を指導され、会場みんなが自己癒しを楽しく経験。米国で2割が利用しているのは医療費が高くこちらが安いことも影響しているようだが、日本でも



医療費全体の大変さの中で対応すべきではないかと考えるがデータの蓄積が大切かと締めくくられ、身近な素晴らしいお話に拍手喝采が続きました。

会場からの質問。具体的にどこで経験することができるか。「関東でも42の百貨店等で実施。都心では汐留（ロイヤルパーク



汐留タワー）、新宿（伊勢丹メンズ館）、池袋（ルミネ、マルイシティ）、有楽町（イトシア）などに学院直営のリフレサロンがある」との紹介。資格取得のコースとしては、「通学、通信、3 か月、6 か月、1 年、若い人向けの2年のコースなどがある」。足裏のツボとは違うのか。「ツボは点で、リフレは面でとらえるので違う」。施術はずっと続けなければいけないのか。「気になる症状が特になくなくなれば、無理に受け続けなければならないといったものではない」。等の回答がありました。

クリニック・ホスピタル便り
＜医療法人社団明悠会サンデンタルクリニック＞

根底に東洋医学の考え



何度も司会とかワンポイントレッスンでお世話になった小山悠子先生の経営するサンデンタルクリニックは新宿西口付近の高層ビル街の一角、新宿駅から数分のエステック情報ビルの3Fにあります。オフィスフロアの一角ですから、モールの中あるような、目で見つけて入る歯医者さんではなく、むしろ人通りの少ないひっそりしたコーナーにあるので、やはり長年の患者さんやその紹介の患者さんが多いのでしょう。

以前講演もして頂いた福岡明先生のグループ明徳会と言う医療法人から独立されて明悠会としてスタートして間もなく2年。歯科医師10人ほど、総勢20人余りの立派な歯科クリニックで、経営もさぞや大変と思いきや、中間管理職のジレンマから解放され、むしろ何でも自分の責任で出来るので気楽になった側面も多いとか。明徳会勤務が計30年、院長として25年とかで、経営も経験的には十分。また、採用についても最近では以前ほど苦労しなくてもいいようで、まさに順調といったところでしょうか。



十数回通って3人の男性歯科医師に診てもらった経験では、とても優しい先生ばかり。

個別の診療の椅子は比較的プライバシーが保たれている造り。診療の椅子に座ると、まず、両手のツボに低周波通電器を装着。特に歯茎の血流が2倍になるとかで、東洋医学を取り入れた歯医者さんではかなり使われているようです。小山先生も日本歯科東洋医学会の理事で、鍼灸、漢方、気功、食養をはじめとする東洋伝統医学療法を歯科臨床にも生かすことができる、あるいは「全身の状態が口腔に投影される」という東洋医学の考え方をもっておられるようです。また、小山先生はリングテストの認定医でもあります。21世紀は、西洋医学以外のいろいろな医療を生かす統合医療の時代とも言われます。

もう一つ、身近な特徴として、過去にかかったクリニックの歯医者さんと比べると、どの先生も歯磨きを強調されることです。いい加減な歯磨きをして診療を受けると「ダメですよ」となります。筆者のようにずぼらな患者でも何度も注意されるとさすがに磨こうという気にもなりますね。小山先生からは、通常口の中は弱酸性、pHで言うと6.8位ですが、糖分を含んだプラークが口内に残ると唾液が酸性に変化し、pHが5.4以下になると歯が溶け始め、虫歯になって行くというような説明を受けました。理科の時間を思い出し、青色のリトマス試験紙を買いたくなりました。

小山先生の趣味はバレエで、今もレッスンに通われるとか。細身の体がそれを示していますね。日大歯学部を出られて歯科医師として勤務された後、再度聖マリアンナ大で解剖学を勉強されて博士号までとられた勉強好き。先生の息子さんも、特に矯正を専門分野としておられるようですが、歯科医として一緒に勤務されているので後のことは安心といったところでしょうか。30年近く前に診た患者さんが、他の医院で小山先生の治療を褒めていたと言ってまた来てくれたりするとうれしく、誇りでもあると言われました。都会であっても、長年同じところで診療を続けられる先生は、歯医者さんでも家庭医的な存在かも知れませんね。(サンデンタルクリニック：03-3348-5785)

わかりますか “WBGT”

節電とともに「熱中症リスク計」も

夏もピークを迎えています。熱中症に直結した温度の概念と関連商品をご紹介します。

WBGT とは何か、と聞かれてすぐに答えられる人は立派。これは **Wet Bulb Globe Temperature** の略で湿球黒球温度と訳され、酷暑の環境下での行動のリスクの度合いを測る指標で、国際的に使われているようです。簡単に言えば、常識的にわかるように、熱いと言っても単に気温だけで判断してはダメで、湿度や輻射熱も考慮した一つの指標を作りましょうということで生まれ、スポーツの現場や軍隊などでも使われる指標になっています。

まず、湿球温度とは何か。湿球とは寒暖計の下方にある球部分を湿った布で包んで温度を測ったもので、空気が乾いていると早く気化するので熱を奪い、温度は低く出ます。逆に空気が湿っていると気化が鈍り、気化熱を奪わないので高く出ます。次に、黒球温度とは何か。輻射熱を吸収しやすい黒色を球に使った特殊な温度計で測定した温度。当然高く出ます。乾球温度が一般的な寒暖計による気温。これらの3つの温度を加重させてつくった温度が **WBGT** つまり湿球黒球温度となります。その加重のかけ方ですが、屋外と屋内では別の尺度が使われ、

屋外の場合は、 $\text{湿球温度} \times 0.7 + \text{黒球温度} \times 0.2 + \text{乾球温度} \times 0.1$

屋内の場合は、 $\text{湿球温度} \times 0.7 + \text{黒球温度} \times 0.3$

と定められています。簡単に言えば、湿度を加味した温度が70%の比重を占めているということで、次に、輻射熱の程度を問題視。生の温度つまり乾球温度単独ではあまり問題ではなさそう。

さて、この **WBGT** を5段階にわけてリスクの指標としていますが、それによると、

31℃以上 運動は原則禁止のレベル (体の熱を逃がすことが不可能)

28-31℃ 厳重警戒レベル (熱中症の危険大。運動するなら積極的休息、水分補給)

25-28℃ 警戒レベル (積極的休息、水分補給)

21-25℃ 注意レベル (熱中症による死亡事故の可能性あり。水分補給)

21℃以下 ほぼ安全 (通常はリスクは少ないが市民マラソンなどでは注意)



となっています。統計的にも、WBGT 温度と熱中症患者数との相関は極めて強いようです。

さて、この **WBGT** を一つの計器にしたのが **WBGT 計**、言わば熱中症リスク計です。スポーツなどの現場だけではなく家庭でも熱中症は増加傾向。庭仕事などの際はもちろんですが、特に最近は家の中にいても熱中症で救急搬送される人が多くなっていることを考えるとあってもいいかも知れません。**WBGT 計**は¥2000 前後の安いものから1万円を超える高いものまで一杯出回っています。それほど高いものではないので、節電対策に協力して電気代が節約出来たら、この際買ってみるのもいいかも知れません。左の図は1例で、マザーツールと言うメーカーの3000 円台後半のお手頃品です。

調剤報酬の仕組み

供給側本位の複雑さ

調剤報酬は診療報酬の一部として今年も4月から改定されています。調剤報酬とは、処方箋を調剤薬局に持って行って薬を買う時の価格ということになるでしょう。処方箋は年間で合計7億6000万枚ほど出されており、国民1人当たり年6枚程度になりますが、もちろん、歳をとれば年10枚以上の人も多いでしょう。同様に、調剤報酬の明細書も同じだけもらっているわけです。国民医療費がどんどん増えていく中で、調剤報酬は6兆円を超え、近年、年率6%以上増えている、もっとも増加率の高い分野。意識を高めるため、薬局での価格決定の仕組みを見てみましょう。調剤報酬はもちろん保険点数で決められているのですが、国の方針とか薬を取り巻く利害関係者の思惑を反映して大変複雑に作られている印象です。調剤報酬は、調剤技術料、薬学管理料、薬剤料、特定保険医療材料料の4項目で構成されていますが、調剤技術料を例にとって見てみましょう。



調剤技術料には、さらに細かく、調剤基本料、調剤料および各種の加算があります。

調剤基本料は40点(1点10円)ですが、それにその薬局が保有する在庫品目数に応じた基準調剤加算と言う点数が加えられます。品目数が700以上で10点プラス、1000品目以上なら30点プラスとなります。要は、保有品目数が多いほど対応し易くなりますが、回転の少ない品目を置くとか、在庫管理にも余分なお金がかかるので、その分余分に患者から取ってもいいですよ、と言う意味です。一般的には大きい薬局ほど値段が高くなるわけです。また、薬局のジェネリック医薬品の調剤数量の割合(22%以上、30%以上、35%以上の3段階)によって、5点、15点、19点を加算する後発医薬品調剤体制加算もあります。ジェネリックの方が値段が安いので、当然薬局の利益も減りますから、そう言う薬局は患者から少し余分に取ってもいいですよ、と言う意味です。患者側の価値から見たら、あるいは市場原理から見たら実に変な話で、比較が容易でなく、価格を考えず習慣的に同じ駅前薬局で購入する人が多いことに甘えた供給側本位の制度でしょう。

調剤技術料の2番目の調剤料は、内服、浸煎薬、湯薬等に分かれ、内服はさらに細かく分かれています。例えば、7日分までは1日に付き5点とか、8日分~14日分については1日分4点、15日分~21日分では1調剤につき71点とか・・・書ききれませんが、13通りの調剤料があります。また、調剤料にもいろいろ加算があります。夜間とか休日の場合、加算40点とか、時間外で調剤応需体制にない場合には100%加算から200%加算、つまり2倍、3倍になることもあります。調剤料の加算には、自家製剤と言って薬局で手を加える調剤の場合には、その程度に応じて20点から90点までの加算もあります。

ここまでの例だけでも、複雑さは十分ご理解いただけると思います。個別に見ると確かに事情はわかりますが、現場では結構余分なエネルギーも使っているように思われます。診療報酬体系の複雑さが、現場の電子化の普及を遅らせる要因にもなっているとも聞きます。大局的に見て本当に国民のためになっているか、大変疑問ですが、市民は、とりあえず、同じ薬を時には別の薬局で買って、値段の違いを意識してみてもはどうでしょうか。

医療は公共財かビジネスか

③⑥ メガネの技術者

メガネは医療なのかどうかと聞かれた場合、国際的に見ると、日本ではもっとも医療の中心からは遠い存在と言うことが出来るかも知れません。メガネに関して、日本では国家資格はなく、民間の専門学校や、企業内の研修がすべて。誰でも眼鏡の販売は可能で、医療の公共性を謳う日本では、医療に隣接したビジネスの業界と言えるでしょう。欧米や韓国、中国などでは、検眼から、レンズ加工、フィッティングなどのメガネに関する様々な技術に関して、カバーする範囲は一律ではありませんが、国家資格、公的資格を作っています。それらの国々では、国家資格がある故に、メガネの技術者は社会的にも認められた存在ですが、日本では人によって技術のレベルも様々で、一般的には地位は低いと言ってもいいでしょう。



日本でも法制化の動きがなかったわけではなく、1980年代には議論されたようですが、メガネ店と眼科医の利権、守備範囲の問題がそれを阻んだようです。たとえば、現在、検眼は、法律（医療法）的には医療行為とされていて、本来、眼科医でなければ出来ないことで、メガネを作る際は、例外的に、「人体に影響を及ぼさない場合の補助的行為としての範囲でのみ認められている」と言うのが現状のようです。つまり、メガネ技術の国家資格を作れば、法律的にも、検眼がメガネ店の業務として認定されることになる可能性が高い。眼科医から見れば、視力の異常にはいろいろな要因があり、本来、眼科医でなければ分からないような目の病気の可能性もあり、メガネ店は眼科医の処方箋に基づいてメガネを作るべきと言うのが大きな理由になっています。

しかしながら、メガネ店業界の地位向上とか技術レベルの均一化、向上の気持ちは強く、単なる専門学校卒業から、2001年に、公益社団法人言わば民間の日本眼鏡技術者協会の「認定眼鏡士」と言う資格制度が出来て、登録も始まりました。認定眼鏡士の業務の一つとして、「認定眼鏡士は他の専門職の診断や意見が必要と思われる場合は、生活者に速やかに、且適切な勧告を行う。」と言う条文があります。現実的には、近視になったら、眼科に行かず、圧倒的に多くの人が、直接メガネ屋に行くことを考えると、目の病気が疑われる場合にメガネ屋さんが眼科受診をきちんと勧めるかどうか、がこの民間の資格の成否を分けるのかも知れません。メガネの専門学校には、医学的な科目もあり、眼科に出向いて勉強するような科目を設けているところもありますから、認定眼鏡士には相当程度の知識を持たせることは出来るはずで、すべての人が眼科医の処方箋を持ってメガネ屋に行くよりは現実的でしょう。

認定眼鏡士がいることなどを販売の条件としたメガネ店許可制をとってはどうかと言う働きかけもあります。昨年には、「眼鏡技術者の国家資格制度」を求める運動を推進する新組織『眼鏡技術者国家資格推進機構』（資格推進機構）と言う団体も発足。徐々にではありますが、メガネが公共性を増していると言えるのではないのでしょうか。

メガネと言えば、近年、低価格品が急増していますが、かつての安易にブランド名に何万ものお金を払っていた時代よりは増し。さらに、技術に対して妥当なお金を払う時代の到来が望めますね。

03-5403-7724 健康医療市民会議宛て

定例会参加申込書

送信日 2012年 月 日

ご氏名：

8月定例会＜8月21日（火）国際医療福祉大学大学院＞に

A. 参加します

B. 参加しません

同伴者、住所変更などご連絡事項がありましたらお知らせください。

先生を囲む会：定例会の終了後、毎回、有志の方々により、講演していただいた先生を囲んで、会場付近のレストランにて、軽食と飲み物の「先生を囲む会」を開いています。会費は¥4,000。どなたも歓迎！ご参加を希望される場合は、○を → 先生を囲む会参加希望



お知らせ：7月31日から8月6日まで健康医療市民会議（KISK）事務局はお休みです。ご了承ください。

健康医療市民会議（KISK） 代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-2 東武ハイライン大門 203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: [http:// www.kisk.jp](http://www.kisk.jp)